

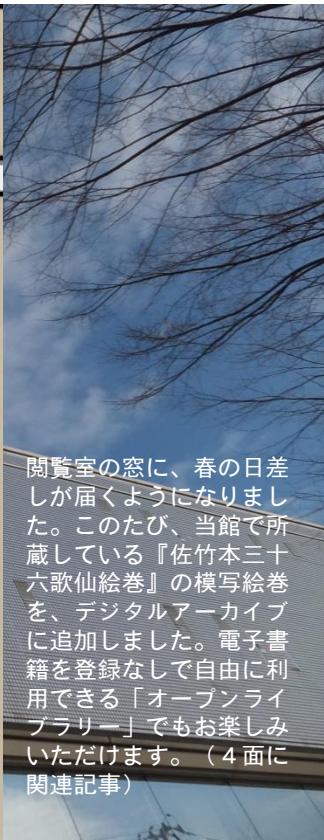


秋田県立図書館広報

秋田県立図書館だより

Vol.82

平成27年3月発行

**DIGITAL ARCHIVE**
デジタルアーカイブ 秋田県立図書館

小野小町
小野宰相常詞女古今目録
かの國郡司女号此右姫
あ代間人於石上有贈遍照之哥
いわえとすうりわふわはよのゆ
人のくわれをむかひありけめ

閲覧室の窓に、春の日差しが届くようになりました。このたび、当館で所蔵している『佐竹本三十六歌仙絵巻』の模写絵巻を、デジタルアーカイブに追加しました。電子書籍を登録なしで自由に利用できる「オープンライブラリー」でもお楽しみいただけます。（4面に関連記事）

県立図書館の現在、過去、未来

秋田県立図書館副館長 山崎 博樹

平成四年に県立図書館に赴任して以来、二十二年が経った。国立国会図書館に出向した二年間を除けば二十年も図書館に在籍したことになる。そんな私でも今でも決して忘れられない日がある。それは平成五年十一月一日、現在の県立図書館がオープンした日である。当時、私は新図書館の準備担当であり、前日までは遅くまで準備していたが、やはりどれだけの県民が来館していただけるのかは、不安なことであった。しかし、不安は的中せず、オープン日は三千人を超える来館者に恵まれ、県民の図書館への期待に対して嬉しく思って同時に責任も感じた日ともなった。

設計段階での利用想定は一日八百人であったが、当時の一年間の利用者は三十三万人強、一日当たりにすると千二百人程であった。さらに現在は、年間四十三万人の県民が来館している。他の都道府県立図書館の利用と比較すると、当館のように建物が古くなつて利用が増大しているケースは稀有なようだ。そのため当館には県外から多くの議員や団体の視察があるが、いつも利用が増えている要因を問われる。ただし、その答えを私は明確に提示することができないでいる。

二十二年間で県立図書館は様々なサービスを提示してきた。市町村図書館支援、電子図書館、ビジネス支援、課題解決型コーナー、館内コンサート、学校図書館連携、雑誌スポンサー等、振り返ってみれば毎年のように実に多くのサービスを始めてきた。やはり、ひとつひとつサービスが県立図書館の利用増に少しづつ結びついて、現在に繋がってきたのだろう。

次の十年にどのような社会変化があり、それに対して図書館がどのようなサービスを行うべきかは、既に老兵である私には知る由もないが、新しい歩みを止めた時から、衰退は始めることは間違いない。文豪トルストイは「最上の幸福は、一年の終わりにおいて、年頭における自己よりも、よくなつたと感ずることである。」「『読書の輪』に書いてある。私たちも大きな一步は踏み出せなくとも、小さな一步なら踏み出すことができるのかかもしれない。」

スポンサー制度を活用した企業活性化の取組

当館は、全国の図書館に先駆けて、平成13年度からビジネス支援サービスに取り組み、平成24年度には「雑誌スポンサー制度」を導入しました。平成25年度からは、文部科学省の「公民館等を中心とした社会教育活性化支援プログラム」の委託を受けて「スポンサー制度を活用した企業活性化事業」を実施しました。これまで2年間にわたる取組の概要を紹介します。

1 雑誌スポンサー制度



1階エントランスホールの雑誌スポンサー企業等紹介コーナーでは、各社の資料を入手することができます。

で、図書館を企業の情報発信の場として活用していただく制度です。1階エントランスホールには雑誌スポンサー企業等紹介コーナーがあり、各社のパンフレット等を置いています。現在、参加企業は37社で寄贈雑誌は53誌となりました。

この制度は、企業や商店から雑誌を1年単位で寄贈していただき、その企業や商店を「雑誌スポンサー」として、雑誌カバーに広告等を載せるもの

2 ふるさとビジネスセミナー



ふるさとビジネスセミナーは、11月と2月に行いました。

る白石常介氏から、「魅力ある台湾進出のための基礎」と題して講演していただきました。2回目は日本能率協会総合研究所マーケティングデータバンク事業本部長の石川浩一氏から、「ビジネスマンのためのマーケティング入門」と題して講演していただきました。台湾や中国への進出は県の重要施策の一つであることから、経営者や貿易関連企業、県や団体の担当者などの参加があり、当館の取組を伝えることができました。

昨年度に続き
今年度もふる
さとビジネス
セミナーを2
回開催しま
した。1回目は
台湾在住で日
本企業の進出
を支援してい

3 Sponsors' ビジネスカフェ

Sponsors' ビジネスカフェは、スポンサー企業間の交流を図るために昨年度から開催しています。今年度は5回開催し、内容は、館内見学による当館の業務や資料の紹介、データベースの研修、企業間連携（B to B）の事例紹介など多岐にわたりました。企業連携の事例としては、当館のビジネス支援から生まれた製品がスポンサー企業同士の



ビジネスカフェでは、参加者同士が事業を紹介し合いました。

交流により商
品価値を高め
ることに成功
した事例が紹
介されました。
参加者はコ
ーヒーブレイク
を楽しみなが
ら交流を深め
ました。

4 成果を生かした今後の取組

今まで当館の取り組んできたビジネス支援サービスは、図書館から個人や企業に対するものでしたが、この2年間の取組を通して、企業同士の交流による新製品や地域ブランド等の様々な事業の創出や、県内企業の活性化などの可能性が見えてきました。今後は県の関連部局や商工会等と一緒に連携を取りながら、ビジネス支援サービスの展開を図りたいと思います。

現在図書館は、地域の情報拠点としての役割を求めていますが、当館では、「日経テレコン21」や「Mpac」等のビジネス系データベースを始め、全8種類の商用データベースを導入しています。豊富なビジネス系資料や図書館員によるビジネスリファレンス・サービス、関連しての専門機関の紹介等も可能です。また、休日も利用できますので、ビジネスや地域活動で活用していただきたいと思います。

Topics

～県立図書館で開催したイベントや催し物などの紹介～

閲覧室にパスファインダー 「調べ方ガイド」を設置

図書館には、利用者の調べもののお手伝いをするレンタルサービスがあります。このたび、当館に寄せられる「よくある質問」をベースに、37テーマのパスファインダーを作成し、提供を始めました。

パスファインダーとは、資料や情報の探し方を記した調べものの手引きとなるもので、図書館を利用

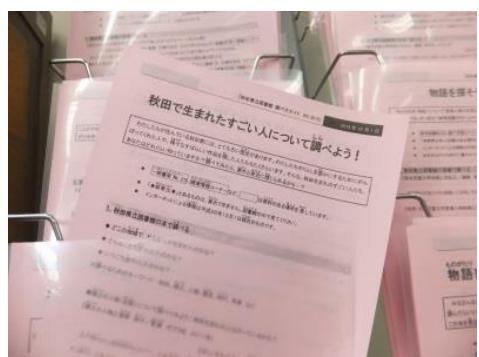
する際に役に立つツールです。

閲覧室の、参考図書コーナー、郷土資料コーナー、調べ学習コーナー、ビジネス支援コーナーに、「調べ方ガイド」として設置しておりますので、どうぞ御活用ください。

(例) 新聞の記事について調べるには

秋田県の歴史について調べるには

秋田の料理について調べよう！など



「調べ方ガイド」の色は、参考図書コーナーとビジネス支援コーナーはグリーン、郷土資料コーナーはイエロー、調べ学習コーナーはピンクです。

東日本大震災からの復興を支援 チャリティーコンサートを開催



フィナーレでは、会場全体で「世界がひとつになるまで」を歌いました。

3月1日、秋田県児童会館のけやきシアターにおいて、震災復興チャリティーコンサートを開催しました。このコンサートは、児童会館を運営するNPO法人あきた子どもネットと共に催行ったもので、今年度で3回目となります。

会場には親子連れや被災地から秋田県内に避難されている方々などおよそ200人の観客が訪れました。今回は「音楽で心のつながりを深めよう」をテーマに、秋田在住の演奏家の方々による童謡やクラシックの演奏、ブラボー中谷さんのマジックショーのほか、ロビーでは電子書籍体験や絵本の読み聞かせも行われ、楽しいひとときとなりました。会場で寄せられた募金55,194円はNPO法人あきたスギッチファンドに寄付し、避難者の方々のための事業に活用されることとなります。御来場くださった方々にお礼を申し上げます。

寧越郡青少年日本文化体験プロジェクト 韓国の高校生 貴重資料を見学



韓国の高校生たちは4階書庫で『佐竹本三十六歌仙絵巻』の模写絵巻を閲覧し、職員の説明を聴きました。

このほど韓国の寧越（ヨンウォル）郡の高校生が当館を訪れ、館内を見学しました。

4階書庫では『御曹司島渡り』や『解体新書』『佐竹本三十六歌仙絵巻』の模写絵巻を直接閲覧しました。また、秋田藩の大工を務めた戸崎家の寄贈による『宮大工資料』や江戸時代に描かれた『久保田大絵図』などにも大変関心を示し、職員の説明を熱心に聴いたり、質問をしたりしていました。

この訪問は、秋田県青少年交流センターが韓国寧越郡青少年相談福祉センターの「青少年日本文化体験プロジェクト」に協力して行うプログラムの一つで、当館へは平成25年に続き2度目の訪問となりました。今回は、高校生19人、指導者5人、通訳ボランティアとして、韓国から秋田大学に留学している学生など総勢30人が訪れました。

